

妙驗山 青葉寺 (室生三本松)

青葉寺は、古くから行者の修練や滝行の場所であったようです。源平合戦の際に平敦盛が、持っていた青葉の笛は、ここの藪の竹で作ったと言われています。

寺の脇の山道を数分登ると高さ約7mの青葉の滝が、階段状の岩を白いカーテンで覆うように流れ落ちていきます。陽の当たる時間には虹の架かる滝を見ることが出来ます。

昨年からは住職の山口行雅さん指導の下『滝行体験』（要予約）プログラムが開催されており滝行やマインドフルネス体験（瞑想）に県内外から参加者が訪れているようです。

また、『九星気学』を用いた占いを行っており、どなたでも人生相談に応じていただけるそうです。
 問 妙驗山 青葉寺 (☎92・2210)



今日の Pick Up 五輪塔の謎に迫る！ 大宇陀政始まち協が石造物調査！

すこうじ 栖光寺跡（大宇陀）に、第56代清和天皇の六男貞純親王の御子で、皇室内では、『六孫王』の愛称で呼ばれた六孫王経基の墓と伝えられる五輪塔の石造物があります。その五輪塔のうち、空・火・水輪が横に並んで半分以上埋もれた状態にあり、また、風輪、地輪が不明となっています。

そこで全体像を明らかにするため、大阪大谷大学の狭川教授、ゼミ学生の協力を得て、大宇陀政始まち協が五輪塔石造物調査作業を実施しました。

調査の結果、風輪、地輪は確認することができませんでしたが、掘り出した3つの大きさを計測したところ、五輪塔の高さは、これまで考えられていた4.3mを上回り、約4.8mに復元できることが明らかになり、築造された年代も南北朝末期から室町時代初期ごろと推定されました。

後日、狭川教授の見解をもとに調査報告会および現場での説明会も開催されました。



▲ 8月から調査作業は始まり、学生もまち協の皆さんも汗を流しました



▲ 掘り出された五輪塔石造物

